『歴史総合，日本史探究』

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

１　前文

新課程の科目として２回目となる共通テスト科目『歴史総合，日本史探究』が実施された。歴史科目としては「歴史総合」『歴史総合，日本史探究』『歴史総合，世界史探究』の２科目・１出題範囲があり，今年度は『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第１問が『歴史総合，世界史探究』の，第２問が『歴史総合，日本史探究』の，それぞれ第１問となった。

歴史総合は，近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉え，資料を活用しながら歴史の学び方を習得し，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察，構想する科目として設置され，日本史探究は，歴史総合を踏まえ，従前の日本史Ａ，日本史Ｂのねらいを発展的に継承しつつ，我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め，各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し，歴史に見られる課題を把握し，地域や日本，世界の歴史の関わりを踏まえ，現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うことをねらいとする科目として設置された。

なお，評価に当たっては，報告書（本試験）15ページに記載の８項目の観点により，総合的に検討を行った。

２　内容・範囲

第１問　『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の第２問と同じ。

第２問　日本の裁定や法の整備について探究している高校生の会話文を基に，原始・古代から近代に至る政治史，社会史について問う問題。

問１　図とそれに関する会話文を参考に，図の裁定方法について述べた二文の正誤の組合せを選択する問題。図と会話文から盟神探湯を判断できる知識と，神明裁判が行われた時期を読み取り，土偶が製作された縄文時代との時期の違いを判断する力も求められた。

問２　用水の争いに関する分国法の規定について述べた四文を読み，正しい二文の組合せを選択する問題。資料から必要な情報を読み取る技能と，喧嘩両成敗についての基本的な知識が求められた。

問３　公事方御定書の制定による裁定の在り方の変化を読み，その変化の前提となった社会の様相として最も適当な文を四文から一つ選択する問題。江戸時代の諸政策についての知識だけではなく，変化の前提として時期や内容が適当かを検証する思考力・判断力・表現力等が求められる良問だった。

問４　会話文を参考に，資料の内容と罪刑法定主義の原則の適合性について判断する問題。会話文と資料から必要な情報を読み取る技能が求められた。

問５　会話文も参考に，古代から近代までの法の整備や裁定について述べた文として適当でないものを四文から一つ選択する問題。会話文から必要な情報を読み取る技能と，地頭の荘園支配や田中義一内閣の社会主義の弾圧についての知識が求められた。

第３問　漆の歴史の調べ学習を通じて古代における国家の支配や税制について高校生が探究している場面を基に，縄文時代から室町時代までの政治史，社会史，経済史について問う問題。

問１　養老令の規定について述べた二つの資料を読み，資料の説明文として最も適当なものを

四文から一つ選択する問題。資料から必要な情報を読み取る技能と，律令の税制に関する基本的な知識が求められた。

問２　漆の貢納国をまとめた地図を参考に，貢納国について述べた二文の正誤の組合せを選択する問題。縄文時代の植生の違いや江戸時代の特産物の形成についての知識が求められた。

問３　漆の管理に関する資料について述べた四文から正しい二文の組合せを選択する問題。中世の定期市に関する基本的な知識に加え，調や律令の政治体制に関する理解と資料から読み取った内容とを関連させて文の内容の妥当性を検証する思考力・判断力・表現力等が求められた。

問４　漆紙文書とその説明文を読み，空欄に適する語句や文の組合せを選択する問題。戸籍から必要な情報を読み取る技能と，律令国家の班田収授法や戸籍制度に関する理解が求められた。

問５　飛鳥時代から室町時代に掛けて，漆の使用や漆塗工人に関する説明文を読み，四つの下線部から８世紀に見られない事柄を一つ選択する問題。それまで出てきた資料やノートから必要な内容を読み取る技能と，乾漆像が流行した時期や室町時代の座に関する理解が求められた。

第４問　「中世の歌人と百人一首」をテーマに，鎌倉時代と室町時代の政治史，文化・社会史について問う問題。

問１　会話文の中から藤原北家を特定し，家職としての公家の軍事貴族化を問う問題。資料を正確に読み取る技能とともに，貴族が武芸を家職とする，軍事貴族として発生し，武家の棟梁となっていく過程に関する正しい理解が求められた。単に歴史的事象の名辞を習得するばかりではなく，事象について正確な背景・経緯などの理解を必要とする良問である。

問２　平安時代から鎌倉時代の文学を中心とする四文を読み，図・資料に関して述べた文として，最も適当なものを選択する問題。与えられた会話文を活用しながら，鎌倉・室町時代の文学に関する歴史的事象に対しての内容的理解が求められた。

問３　調査内容をまとめたノートに関連する二文を読み，正誤の組合せを選択する問題。資料を正確に読み解き，資料から収集した情報と考察文の内容とを時代的に整理し，情報を読み取りまとめ，妥当性を判断する力が求められた。

問４　南北朝・室町時代の争乱と政策に関する三文を読み，古いものから年代順に配列する問題。特に観応の擾乱と半済令の因果関係の理解を前提とする選択肢など，年代などを前提とした単なる並べ替えに留まらず，歴史的経緯を判断する必要のある評価できる問題である。

問５　中世後期の公家の下向を前提とした地図を用いながら，戦国大名や地方への文化の伝播，寺内町などについての理解を問う問題。内容への基礎的な理解を前提に，情報を読み取る技能を問う良問であった。

第５問　江戸時代の対外情報や交流に関する会話文を基に，対外関係史を中心に政治，社会，文化を問う問題。

問１　江戸時代初期・中期の対外関係や貿易等について述べた四文を読み，最も適当なものを選択する問題。江戸時代の海外渡航や外国情報，外交秩序や貿易に関する内容への理解が問われた。

問２　時期の異なる二つの書物，采覧異言と訂正増訳采覧異言にあらわれる国別の記載分量の棒グラフの国を特定し，それを基にオランダ，ポルトガル，ロシアの対外関係に関する理解を問う，興味深い題材を扱った問題。江戸幕府の基本的外交秩序と近世後期の異国船の侵入への内容理解を前提に，リード文の前提を踏まえ19世紀初頭の対外関係を想起した上で資料

を確認する必要があり，資料活用の適切な判断が求められた。

問３　享保の改革に関しての四文を読み，適当でないものを選択する問題。歴史的名辞ではなく文章から政策を判断するといった，内容に関する本質的な理解が求められた。

問４　調査内容をまとめたノートに関連する歴史的事実とその考察に関する文を読み，最も適当なものの組合せを選択する問題。近世後期の洋学をはじめとする庶民の学問の高まり，思想家の登場などを関連付けながら，江戸後期の社会，文化に関する適切な理解が求められる識別力のある良問であった。

問５　会話文に登場する人物が考察した疑問と適切な調べ方に関する文を読み，組合せとして正しいものを選択する問題。対外関係の時代を通じた理解とともに，幕府留学生の存在など，今後歴史的にも着目されるべき事象を選択肢でも扱っている。

第６問　近現代を中心に，古代～近世も含めた形で，社会的弱者の権利獲得や待遇改善について問う問題。

問１　古代・中世・近世に関する社会的弱者の救済事例をまとめた表を活用し，その正誤を判断する問題。古代ばかりでなく，綱吉期の生類憐みの令などの政策に関しても，為政者の政策に仏教的な帰依が存在するといった背景への理解など，より深い内容理解が求められた。

問２　明六社の中村正直らが明治初期に組織した楽善会の資料を基に，資料の内容を述べた二文を読み，その正誤の組合せを選択する問題。会話文と資料，それぞれから正確に情報を読み取る技能と，西洋近代思想や近代の産業史などに関する正確な内容理解が求められた。

問３　近現代日本の障がい者・患者の当事者運動の歴史をまとめたノート中の空欄に入る語句の組合せを選択する問題。資料内容の充実に比して，選択肢が基礎的であったので，より多面的な出題が可能であったかと思う。

問４　1964年開催のパラリンピックに傷痍軍人として出場した人物の感想要約を基に，1964年当時の社会・文化に関する事柄と資料から推測される内容を読み，最も適当なものの組合せを選択する問題。高度経済成長期の文化・社会に関する知識，理解とともに，情報を読み取りまとめる力が求められた。

問５　第６問に掲載された三つの事例に関して言及した四文を読み，特徴をまとめた文としていずれの事例にも当てはまらないものを選択する問題。問題全体を総合的にまとめ，情報を選択し判断する力を要する，共通テストとしての性格を反映した良問である。

３　分量・程度

学習指導要領の趣旨を踏まえ，知識及び技能に加えて思考力・判断力・表現力等を問う問題が今年度も多く出題された。60分の試験時間に対して，大問数・小問数はともに昨年度と同じであった。第１問は「歴史総合」から，第２問から第６問までは「日本史探究」から出題され，第２問は全時代融合，第３問は古代，第４問は中世，第５問は近世，第６問は近代・現代という配置だったが，第３問と第６問では時代を横断する問いが一部出題された。課題を設定し追究する探究的な学びにおいては，課題に関して時代を横断してまとめることで歴史的事象の意味や意義，画期についての考察を深めることができる。第２問との重なりには留意しつつ，「日本史探究」の大問においても時代を横断した問いが導入されることは歓迎したい。時代の偏りに関しては，原始・古代から現代まで幅広い年代の事象が問われたが，近現代では昨年度と同様に幕末や明治時代からの出題がやや少なく，現代史からの出題が多かった。分野は，政治史，社会・経済史，外交史，文化史からバランス良く出題され，基本的事項の正確な理解や基礎的な力を問うものが中心だった。

資料については，解答の判断に必要な分量に調整され，程度も適切だった。特に文字資料は現代

語訳にするなどの出題上の工夫があった。一方で，資料の種類は昨年度と比べると文字資料が多く，やや偏りがあった。生徒の探究活動を場面として設定すると，ノート・メモなどの文字資料が増えることが想定される。会話文や本文を含めて文字量を可能な限り減らして全体の分量を抑えながら，多種多様な資料を組み合わせて用いることによって，より多面的・多角的に能力や資質を測ることができる工夫を更にお願いしたい。

4　表現・形式

問題文の表現については，簡潔で読みやすく，資料の提示を含め出題の意図も明快であった。問題文の形式については，全ての大問が生徒の学習や探究の場面を設定した問題となり，その学習の過程で作成したノート等の資料が多く見られた。各大問における最後の小問は，昨年度と同様に歴史的な事象や概念，構造に関して検証・考察する問いが設けられていた。また，各小問を解答する際に，見開きページ内にある本文や資料でなるべく解答できるように工夫されていた。科目の特性を踏まえ，思考や判断の時間を確保する配慮として今後もお願いしたい。

各大問で提示された題材については，第１問は歴史における旅とその役割，第２問は日本の争いごとの裁定や法の整備，第３問は漆を材料とした古代における国家の支配や税制，第４問は藤原定家とその末裔，第５問は江戸時代の海外情報，第６問は社会的弱者の権利獲得がそれぞれテーマとして取り上げられた。第６問では，患者や障がい者の運動の歴史について，前近代から明治期，大戦前後までの時代を超えた運動の展開が分かりやすくまとめられていた。ノーマライゼーションの理念に基づき，インクルージョンを目指した社会づくりが進められている現代社会に対して，政府だけでなく市民の意識変化の重要性を示唆するものであり，現在とのつながりや自己との関わりに関する探究課題の一つとして，授業でも活用できるものであった。

小問で見ると，33問のうち，空欄に適する語句や文の組合せを選択する問題が４問，正文を選択する問題が６問，正文の組合せを判断する問題が６問，誤文や問題の条件に不適な文を選択する問題が４問，二文の正誤の組合せを判断する問題が５問，妥当性や適合性を判断する問題が６問，年代の整序問題が１問，資料を基に地図で訪問した順序を判断する問題が１問であった。例年と比べ，年代整序の問題が減少したが，正誤の判断において大まかな年代感覚を求める問題は増加している。22 のように，年代間隔は狭いが，観応の擾乱の長期化と半済令の因果関係を踏まえて整序できる問題は良問だと考える。年代整序の形式で問うことで効果的に確かな理解を測ることができる作問は今後も続けてほしい。また，妥当性や適合性を判断する問題では，単に内容の正誤を判断するのではなく，資料から読み取った内容と正しい知識や理解を基に，歴史的な見方や考え方を働かせ，思考や判断を求める問題が多かった。この形式の問題は，資料からの情報の抜き取りや簡単な知識だけで解答の判断ができないように，より一層問い方の工夫が必要だと感じた。

5　まとめ（総括的な評価）

多様なテーマ設定や学習・探究の場面を通じ，歴史的事象の内容的・概念的な理解だけでなく，資料から情報を収集・整理する技能や，事象の変遷や背景を論理的に考察・検証する思考力・判断力・表現力等を多面的に評価しようとする問題であった。特に，社会的弱者の権利獲得や地域を超えた交流など，現代的な課題につながる題材の採用や，時代横断的な問いの導入は，学習指導要領のねらいに沿ったものであったと推察する。

具体的には，単なる知識の有無を問うだけではなく，正確な基礎知識を基盤として，資料の妥当性や適合性を判断させるなど，受験者の学習成果が反映されやすい工夫がなされていた。一方で，文字資料の割合がやや高く，図版や地図といった多様な資料の活用方法には更なる工夫の余地もあ

ろうが，全体としてバランスの良い出題は，学校現場における探究的な学びへの指針となる姿勢であろうと考えた。資料で示される歴史的事実を，正確な知識と関連付けて多角的に判断させる問いは，今後ますます重要となる。基本的事項の正確な理解を適正に評価しつつ，歴史的な見方・考え方を働かせることを求める今回の問題は，高等学校の授業方法の改善に向けたメッセージとして，非常に示唆に富むものといえる。

最後に，共通テスト問題作成に関係した方々の多大な御尽力に，心から敬意を表したい。